

ブアン仏教遺跡と熊山遺跡の比較検討

丸谷憲二

1 はじめに

熊山遺跡に最も類似した仏教遺跡は、中央アジア・タジキスタン共和国ワハーン渓谷にあるブアン仏教遺跡である。しかし、日本にはブアン仏教遺跡の研究者はいない。秘境探検家達によりネット公開されている情報を報告する。『仏教伝来 中央アジアルート』である。ネットの秘境情報と熊山遺跡を比較し報告する。



2 タジキスタン共和国の位置

タジキスタンは、中央アジアに位置する共和制国家。首都はドゥシャンベ。旧ソビエト連邦から独立した。南にアフガニスタン、東に中華人民共和国、北にキルギス、西にウズベキスタンと国境を接する。(外務省)
在留邦人数 47 人 (2012 年 10 月)・在日当該国人数 81 人
(2013 年 12 月法務省)

2.1 タジキスタン共和国の略史

年 月	略史(外務省)
紀元前 4 世紀	アレクサンドロス大王により制圧
紀元前 250 頃	グレコ・バクトリア王国成立
1~3 世紀	クシャーン朝による支配
6 世紀中頃~	テュルク系遊牧民(突厥)の侵入、次第に住民のテュルク化が始まる
7 世紀	ソグド人の活動が最盛期に
8 世紀以降	アラブ勢力の侵入、土着のイラン系住民がイスラーム教を受容。 テュルク系諸民族がこれらイラン系住民をタジクと呼ぶようになる。
9 世紀後半~10 世紀	イラン系のサーマーン朝成立(文芸・学問の発展)
13 世紀	モンゴル帝国の支配

2.2 ワハーン渓谷 / Wakhan valley

パミール系諸民族の暮らしに触れ、パンジ川の対岸にヒンドークシュを背後に控えたアフガニスタン・ワハーン回廊を望むことができるのがワハーン渓谷である。この地域は厳しい自然環境だけでなく、地形形状の特殊性からも、独自の文化・風習を守り続けてきた人々が暮らしている。この地域に暮らすのはワヒ族、ショグナーン族といったパミール系諸民族で宗教はイスラム教ですが、パキスタンのフンザ地方やアフガニスタンのバダフシャン州と同じくイスマイリ派(アガ・ハーン)を信仰している。民族も、その景観もパキスタンの上部フンザ地方に近い雰囲気を感じられる。

この渓谷には拝火教寺院跡や仏教僧院跡も残り、古くから文化伝播の道であったことをうかがうことができる。タジキスタンとアフガニスタンとの国境沿いを延々と流れるパンジ川は、ワハーン回廊から来るワハーン川とゾルクル湖から来るパミール川がランガールにて合流したもので、西へと流れウズベキスタンに入るとアム・ダリヤと名前を変え、アララ海に至って 3,000 キロに及ぶ流れを終える。ワハ

ーン渓谷のハイライトは、パンジ川の対岸に広がるアフガニスタン側、ヒンドゥークシュと扇状地の広がる雄大な景色。村人も解放的で明るくツアーリストを迎えてくれる。(西遊旅行社より)

3 ファン仏教遺跡

ストゥーパの跡と断崖に無数の仏教寺院の跡が見える。かつて仏教がこの地域で信仰されていた。ヴァン仏教遺跡は4(5)世紀～6世紀の築造と推定されている。周囲を見渡すと山腹にいくつか洞穴があり、人々の住居跡である。

4 石積段数の比較

ヴァンの仏教遺跡は石積5段の仏塔である。熊山遺跡は平面4段層塔である。

修復前の熊山神社境内1号の写真(潮見定秋氏撮影)



5 仏塔上の比較

ヴァン仏教遺跡の仏塔上に、お釈迦様の足形状の窪みがある。観光案内に、「山岳国家タジキスタンの雄大な大自然にふれ、ウズベキスタンのアマダリアのほとりに花開いた仏教文化を訪ねる。」とある。ウズベキスタン国立博物館にアジナ・テバ仏教寺院出土の13mの涅槃仏がある。熊山遺跡の基壇中央に竪穴石室があり、その中に高さ162cmの陶製筒型容器納められていた。容器内に三彩小壺と皮革が入っていた。筒型容器は奈良県天理市の天理大学に収蔵されている。



アジナ・テバ仏教寺院出土の 13m の涅槃仏(ウズベキスタン国立博物館蔵) 熊山遺跡 陶製筒型容器

6 龕と仏像の有無

ブアン仏教遺跡には龕は無い。熊山遺跡には、3段目各側面中央に奥長の龕がある。東大寺頭塔(奈良)は奇数層壁面に石仏を納めた龕が有り、大野寺土塔には無い。韓国の積石遺構で龕があるのは、慶北道義城郡安平面石塔里の義城(ウィソン)積石遺構のみである。他には無い。韓国の積石遺構は早いものでも800年以降の築成が殆どである。(吉房信夫氏・熊山町教育委員長)

ブアン仏教遺跡近くの山肌に洞窟があり仏像が置かれていた。この洞窟が龕に変更されている。



奈良の東大寺頭塔



大野寺の土塔



韓国 義城(ウィソン)積石遺構



韓国 安東(アンドン)積石遺構

6.1 熊山の南山崖石積遺構の龕

南山崖石積遺構の形状は平面方形3段層塔 中段側面中央に下段へ半地下状に刳込んだ龕ありと出宮徳尚氏は報告している。熊山石積遺構と南山崖石積遺構の2基のみを、石積み構築物との判断である。



熊山の南山崖石積遺構

7 仏教遺跡付近の墓

ブアン仏教遺跡近くに石墓がある。かなり古い。石の隙間から骸骨が見える。

熊山遺跡に和気清麻呂の墳墓説がある。正確には、和気清麻呂の墓説『吉永町史』と和気清麻呂にかかわりのある人の墓説(近江昌司説 天理大学)である。犬塚(犬墓)の意味が重要である。



ブアン仏教遺跡近くの石墓と骸骨



熊山・舟下山 1 号・犬墓石積遺構

別部の犬（『播磨国風土記』讃容郡）

この鉄を生ずる「十二の谷」を発見したのが「別部の犬（わけべの・いぬ）」だと播磨国風土記にある。別部（わけべ）も部民の名である。人でありながら犬を自称し、犬の子孫であり、鉞物を探し出す部民である。犬を祖先とする氏族である。犬とは狼である。

8 岩絵

ブアン仏教遺跡近くから古代の岩絵が何百個も見つかっている。そのほとんどは山中にある。簡単にみれる岩絵がある。ヤギらしき動物が描かれている。



ブアン仏教遺跡近くから古代の岩絵

9 積み石遺構 オボーと回壇説

積み石遺構オボーが知られている。モンゴルの首都ウランバートル市街地の東、ウランバートル市ナラフ区にあるオボーである。日本の道祖神は路の分岐点に置かれる。オボーは小高い丘の上にある。旅人はここでお参りする。周辺で石を拾い、時計回りにオボーの周りを3回転しながら、拾った石を投げて積んで行く。この時に旅の安全等を祈念する。遊牧民が旅の安全や富を祈願する石積みである。



積み石遺構について、「戒壇の回りを新しい宗教の人達がぐるぐる回りながら信仰し回るから回壇だ」 五来重説（大谷大学教授）である。この説明よりモンゴルのオボーの

説明のほうが理解できる。

常楽寺経塚の石積みの石は近くの大きな岩を割っている。大きな岩を何のために割るのかが解明されていない。積み石遺構が熊山全体に50箇所以上分布している。鉱石採取と推定している。



常楽寺経塚 近くの大きな岩を割る

10 まとめ

「日本にはヴァン仏教遺跡の研究者はいない。」と問題提起した。「タジキスタン共和国にも、ヴァン仏教遺跡の研究者はいない。」わずかな伝承が残っているだけである。

北インドで生まれた仏教は、東南アジア方面（クメール王朝、シュリーヴィジャヤ王国）に伝播した上座部仏教（南伝仏教）と、西域（中央アジア）を經由して中国から朝鮮半島へ広がった大乘仏教（北伝仏教）に分かれる。『熊山遺跡とは大乘仏教（北伝仏教）の終着駅』である。

大野寺土塔は、神護4年（727）頃に築造された十三重の土塔であり、東大寺頭塔は実忠が良弁の命により神護景雲元年（767）築造とされている。熊山遺跡は龕より考察し767年以降の築造となる。



11 参考文献

- ①『熊山遺跡とヴァン仏教遺跡』 丸谷憲二 平成26年5月24日
- ②『世界のどこかで』 <http://blog.livedoor.jp/gompagompagompa/archives/1556121.html>
- ③『世界の隅々まで見てみよう！個性派の陸旅倶楽部』 <http://rikutabi.blog.jp/archives/15660124.html>
- ④ <http://rikutabi.blog.jp/tag/ヴァンの仏教遺跡>
- ⑤『熊山遺跡・日本・謎の石造遺物紀行 4 岡山編 熊山遺跡』
http://www.geocities.jp/gur_bahram/msrj/msrj04.htm
- ⑥『西遊旅行社』 http://www.saiyu.co.jp/special/central_asia/midokoro/tajikistan/index.htm
- ⑦『ヴァン仏教遺跡』
<http://www.traveladventures.org/continents/asia/vrang-buddhist-stupa06.html>
- ⑧『キルギス共和国と日本』丸谷憲二 平成23年8月13日
- ⑨『熊山仙人との出会い 高森利夫氏の追想』山崎泰二 2015.2.3
- ⑩『大瀧山と霊山寺』大瀧山西法院 瀧山光實住職 平成25年9月28日 第2回講演会
- ⑪『熊山遺跡の仏塔観』出宮徳尚 2015年5月23日 熊山遺跡群調査研究会総会記念講演
- ⑫『地球の歩き方 中央アジア サマルカンドとシルクロードの国々』2013年 ダイヤモンド・ビッグ
- ⑬『新シルクロード 歴史と人物 第7巻 仏教の来た道』長澤和俊 2005 講談社

12 追記

ヴァン仏教遺跡と熊山遺跡との関係に注目し、最初に研究発表されたのは、ウェブサイト『旅の空』の管理人、バハラム氏です。ご紹介させていただきます。